

# 美術

開隆堂

光村図書

日本文教出版

令和6年度

中高・飯水地区中学校教科用図書採択研究協議会

種目（美術）

<p>発行者名</p> <p>採択基準</p>	<p>開隆堂（美術）</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各題材で知識技能に関する学習の目標が示され、巻末にある「学びの資料」に触れることで、効果を理解したり表現方法を工夫したりすることができるよう配慮がなされている。</li> <li>・多様な表現の作品や制作過程が示されており、それらが豊かに発想し構想を練りながら主題を生み出すための問いを作り出せるよう配慮がなされている。</li> <li>・生活や社会の中の美術や美術文化が紹介され、美術を愛好し、心豊かな生活を創造できるよう配慮がなされている。</li> </ul>
<p>2 生徒の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <p>本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト、レイアウト等</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 題材の様々な展開を示す作品例が、色や形、造形的な特徴などを元に紹介され、表現方法の視野の広がりや各学年の発達段階にそって学ぶことができるよう配慮がなされている。</li> <li>(2) 作者や作家の言葉、制作過程が紹介され、生徒が表現の見通しをもち、イメージを膨らませながら、発想や構想につなげられるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) 単元の展開に結びつけやすいよう観点別場面別に構成され、鑑賞で感じたことを「作者のことば」から色や形へのイメージの膨らませ方につなげ、それをどう造形的に表していくのかのヒントが多く例示されていることで、学びの調整がしやすいように工夫がなされている。</li> <li>(4) 安全面での配慮する活動に、注意喚起マークが示され、写真やイラストで用具の安全な使い方がわかるように配慮がなされている。</li> <li>(5) ユニバーサルデザインフォントが採用され、文字の見やすさへの配慮がなされるとともに、例示されている作品の一部が拡大されて掲載されることで筆致や絵肌の細かな表現がより身近に感じられるように構成の配慮がなされている。</li> </ol>
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <p>「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 巻末に小学校図画工作から美術へのつながりや各領域の学びの意義が示され、中学校美術を俯瞰し、系統的に学習できるよう配慮がなされている。</li> <li>(2) 各題材に鑑賞のページが配置され、生徒が自己の表現を振り返り、自己の表現を上げたり、他者の作品のよさに気付いたりできるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) 各題材に学習の視点や考え方のヒントが示され、美術科の「見方・考え方」を通して、自ら追求し、友の表現と関わりながら学習を進めていけるよう配慮がなされている。</li> <li>(4) 巻末に美術の知識理解を深める「学びの資料」が掲載され、単元の最初のページの上部にある注釈から関連付けられるよう配慮がなされている。</li> <li>(5) 二次元コードを読み取ることで、関連する情報や映像資料、作品の360度資料をICT端末で閲覧でき、学習過程で表現や理解を深められるように配慮がなされている。</li> <li>(6) 単元展開を考えやすい構成や情報がまとめられていることで、単元のまとめ方や評価が明瞭になるだけでなく、学習を個別最適化しやすくなるよう工夫がなされている。</li> </ol>
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校美術の全体像、領域ごとの意義、各題材の目標など学習活動が整理され系統的に構成されている。</li> <li>・題材ごと、共通の体裁や構成となっており、学びの習得や主体的・対話的で深い学びにつながるよう配慮がなされている。</li> </ul>

種目（美術）

<p style="text-align: right;">発行者名</p> <p>採択基準</p>	<p style="text-align: center;">光村図書（美術）</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・別冊資料や二次元コードの記載などで、多彩な表現や道具の工夫、制作手順が掲載され、生徒が知識・技能を習得する手助けとなるような配慮がなされている。</li> <li>・各題材で鑑賞活動が設定されていたり、生徒の制作過程を紹介したりと、生徒が発想や構想を広げられるような配慮がなされている。</li> <li>・作家や生徒の言葉から美術を愛好することや、道徳や他教科とのつながりを感じさせる記載があり、学んだことを人生や社会に生かそうとする態度を養えるような工夫がなされている。</li> </ul>
<p>2 生徒の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト、レイアウト等</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 図画工作との接続を意識し、「絵や彫刻」、「デザインや工芸」の分野の説明や、特徴を視覚的に分かりやすく組み立てられている。</li> <li>(2) 生徒へ問いかけの言葉や、対話を通じた活動ができるよう、着目したいポイントが吹き出しで設定され、より自分の内面と向き合ったり、生活や社会との関係に視野を広げたりできるよう配慮がなされている。</li> <li>(3) 発想構想の段階では、生徒による制作過程を「みんなの工夫」と紹介して、多様な手立てを写真や二次元コードで例示し、生徒がイメージを膨らませられるよう工夫がなされている。</li> <li>(4) 資料の中で、取り扱いが危険な道具については、注意喚起マークで注意を促すようにしている。</li> <li>(5) 題材ごとに写真や図版の配置や構成が統一され、図版の間隔を空けたり、原寸大の図版やユニバーサルデザインフォントを用いたりして配慮がなされている。</li> </ol>
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 全学年を通して、身近なものに関わり造形活動を楽しめるようにし、各学年の発達段階に応じた材料や道具、鑑賞などを取り上げたり、表現方法を紹介したりするなど表現のしやすい配慮がなされている。</li> <li>(2) 各題材において始めに鑑賞の問いかけを示しており、それらを手掛かりに作品をよく見ることに繋がっている。</li> <li>(3) 造形的な視点をポイントとして示すことで、生徒同士での対話が深まることや、作品を比較できる鑑賞などにより、表現や文化の多様性を知り作品に対する見方や感じ方を広げられるような配慮がなされている。</li> <li>(4) 別冊資料には、「材料」「用具」「技法」「形」「色彩」などが細かな項目で分けられ複数の具体物を例示しながら解説されている。</li> <li>(5) 「体感ミュージアム」では、日本画鑑賞ページに和紙のような紙を使用したり、ゲルニカの鑑賞では、当時の時代背景を知れたりすることで、生徒が実感を伴って学べるような工夫がなされている。</li> <li>(6) 各題材の題材名の下に3観点の目標が示されており、まとめの鑑賞で目標に示されたことを振り返えられるような工夫がなされている。</li> </ol>
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒にとって身近な作品や二次元コードの資料で多様な作品や解説が掲載されており、生徒に語りかけて鑑賞を促し、美術への関心が高まるような工夫がなされている。</li> <li>・学び合う生徒同士の姿や吹き出しのコメント、生徒の制作過程を多く掲載し、授業を具体的に想像できるような工夫がなされている。</li> </ul>

種目（美術）

<p>発行者名</p> <p>採択基準</p>	<p>日本文教出版（美術）</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学びを支える資料」が各巻末に紹介され、各題材や用具の扱い等について生徒が主体的に追求を深めていけるように配慮がなされている。</li> <li>・多くの作品、写真、作者の言葉が紹介されており、生徒が見方や感じ方を広げ、興味をもって造形活動に取り組めるように工夫がなされている。</li> <li>・美術での学びに関連した作家などの言葉に触れ、生徒が生活や社会の中で美術を生かしたり、創造したりしていく良さを実感できるように配慮がなされている。</li> </ul>
<p>2 生徒の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <p>本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト、レイアウト等</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 1領域の中に、各学年の発達段階に応じた表現活動が紹介され、材料や技法なども複数取り上げ、生徒の興味や関心に応じて、表現方法が選べるよう配慮がなされている。</li> <li>(2) 生徒の表現の意図や追求の道筋を、「作者の言葉」や制作中の具体的な生徒の姿で紹介することで、多様な発想を得ながら、造形活動が行えるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) 「作者の言葉」や「表現のヒント」で、主題や表現方法について見直しをもったり振り返ったりすることができ、主体的・対話的な活動に役立つように工夫がなされている。</li> <li>(4) 用具の安全な使い方について、図や写真、二次元コードからの動画、注意喚起マークによって視覚的に分かるよう配慮がなされている。</li> <li>(5) 中央見開きページなどでは、美術作品がほぼ原寸大で掲載され、作品によっては高精細印刷で実物に近く再現されている。</li> </ol>
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <p>「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各学年で扱う内容が1冊ずつに示されており、題材構成は3冊を通して系統性に配慮して配列されている。また、生徒の発達に十分配慮した材料や用具が取り扱われている。</li> <li>(2) 全ての題材に、鑑賞する際の主発問となり造形的な見方・考え方に気付かせる「鑑賞の入り口」という問いかけがあり、表現と鑑賞が一体的に学習できるように工夫がなされている。</li> <li>(3) 題材毎、図版から気付いて欲しい点等が問いかけの言葉で示され、生徒自らが見方や感じ方を広げられるよう配慮されている。</li> <li>(4) 技法や材料に関する資料が写真を多めに分かりやすく掲載され、QRコンテンツ動画も充実しており、生徒が主体的に制作できるように工夫がなされている。</li> <li>(5) 紙面は作品を生かすように白地を基調とし、装飾を抑え主文の位置等にも配慮し、見やすい紙面になっている。表現の手助けとして二次元コードが配置され、主体的に学べる工夫がなされている。</li> <li>(6) 3観点に合わせた「学びの目標」により、目標に照らして生徒の追求を振り返られるように工夫がなされている。発想・構想と鑑賞を往還しながら活動することができるよう配慮がなされている。</li> </ol>
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3分冊による学年ごとの題材構成で、大きな図版を用い、生徒が興味をもって発想や構想を深められるように工夫がなされている。</li> <li>・図版への具体的な問いかけ「造形的な視点」が示されており、追求をより深めていけるよう工夫がなされている。</li> </ul>